

標津町では、アイヌ施策推進法の理念のとおり、アイヌの人々の誇りが尊重される共生社会が実現されるよう推進している。
現状では、文化財等の資源の充実と活用によるアイヌの歴史文化の普及と地域振興のため、本地域特有の資源である「標津遺跡群」等の更なる磨き上げや情報発信、活用のための事業を軸に推進している。R3以降においてもイオル再生の取り組みなど、標津アイヌ協会や文化財保存検討委員会等の意見を参考に現行の方針に沿って取り組んでいく。

①事業： アイヌ文化の保存又は継承に資する事業

現実的な目標として、5か年計100点を目指す

K P I	出土品の同定数等				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	10点	20点	20点	20点	30点
実績値	124点	188点	6点		
単位	／年間	／年間	／年間	／年間	／年間
進捗率等	1240.0%	940.0%	30.0%	0.0%	0.0%
計画策定時に想定したよりも細かな出土品を同定する方法を採ったため、R1及びR2において目標値を大きく上回った。 また、R1～R2の調査により優先的に調査を予定していた出土品のストック数が落ち着いたことに伴い、R3実績が6点にとどまり、R4とR5の調査数量も同様に少なくなる見込み。 R2終了時点では目標値が現実的なものではなくなっていたため見直しを検討していたが、前述のとおり順調な事業進捗によって調査予定の出土品ストックが落ち着き、単年度目標値としては現実的な数値となっているため修正せず、引き続き事業進行する。					

②事業： アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業

現実的な目標として、参加者の着実な増加を目指す

K P I	アイヌ文化教室の参加人数				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	10人	15人	20人	25人	30人
実績値	中止	13人	中止		
単位	延べ／年間	／年間	／年間	／年間	／年間
進捗率等	#VALUE!	86.7%	#VALUE!	0.0%	0.0%
R1は新型コロナウイルス感染症の影響により計画事業の全てを中止したが、R2は回数を減少し1回の開催、R3は全て中止の措置をとった。 R2開催時には、単に刺繍体験のみとせず、アイヌ文化におけるデザインや色の意味などがレクチャーされたことでアイヌ文化に対する理解や興味関心が図られ、参加者からは「また開催してほしい」「次回は友人を誘いたい」「もう少し難しいデザインにも挑戦してみたい」などの意見が寄せられたことから引き続き開催を検討していきたい。 感染症等の状況にも依るが当面は現行の設定目標値のまま事業進行する。					

③事業： 観光の振興その他の産業の振興に資する事業

現実的な目標として、来場者数の維持を目指す

K P I	ポー川史跡自然公園の来場者数				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	5,000人	5,000人	5,000人	5,000人	5,000人
実績値	5,608人	3,153人	2,204人		
単位	／年間	／年間	／年間	／年間	／年間
進捗率等	112.2%	63.1%	44.1%	0.0%	0.0%
K P I	サーモン科学館の来場者数				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	50,000人	50,000人	50,000人	50,000人	50,000人
実績値	47,477人	27,004人	25,732人		
単位	／年間	／年間	／年間	／年間	／年間
進捗率等	95.0%	54.0%	51.5%	0.0%	0.0%
集客施設ということで新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている。人流減少や長期の臨時休館など、R2に続きR3もその影響が顕著に表れたものとなった。目標値の見直しも検討するところであるが、R3にサーモン科学館2階展示を「鮭の聖地」を基軸としたアイヌの歴史文化等を発信する『日本遺産「鮭の聖地」エキシビジョンルーム』としてリニューアルしたことや、当該コーナーにおいてポー川への誘客案内効果が発揮されることへの期待もあることから、当面は現行の設定目標値を修正せず、感染対策等を図りながら事業進行する。					

現実的な目標として、利用者数の維持を目指す

K P I	アイヌ文様ラッピング車両の利用者数				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	27,000人	27,000人	27,000人	27,000人	27,000人
実績値	23,921人	17,288人	17,108人		
単位	／年間	／年間	／年間	／年間	／年間
進捗率等	88.6%	64.0%	63.4%	0.0%	0.0%
事業の性質から新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている。感染症等の状況に依るところが大きいものの、目標値は修正せず、引き続き地域交通基盤を強化する取り組みとして推進したい。					

④事業： 地域内及び地域間の交流並びに国際交流の促進に資する事業

現実的な目標として、文化教室の回数増加等による利用の活性化を目指す

K P I	アイヌ生活館の利用者数(標津・伊茶仁、忠類、茶志骨の4地区生活館)				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	1,000人	1,010人	1,020人	1,030人	1,040人
実績値	1,153人	183人	504人		
単位	／年間	／年間	／年間	／年間	／年間
進捗率等	115.3%	18.1%	49.4%	0.0%	0.0%
新型コロナウイルス感染症の影響からコミュニティ活動自体が停滞している。また、仮に新型コロナウイルス感染症が収束したとしても生活様態自体がシフトしている中、特に年配者の寄り合いなどがコロナ以前のように開催されるか不明であるなど、感染症等の状況に依るところが大きいことから目標値の見直しを検討。しかしながら、令和5年度に茶志骨地区生活館の建て替えを計画しているこのタイミングでは、下方修正が妥当な対応とはいえないことから、引き続き活発な利用を促進すべく現行目標値を維持する。					